

日本書紀

八七

太政官文庫			
		八	和
		四	書
二	一	九	門
〇	〇	二	
冊	架	函	號

內閣文庫			
		八	和
		四	書
三		九	
七	二	八	
函	冊	號	類
五			
架			

內閣文庫	
番號	和 8498
冊數	20 (5)
函號	137 46



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



日本書紀卷第七

大足彥忍別天皇

雅足彥天皇

成務天皇

廣辻氏
藏書記

日本書記卷第七

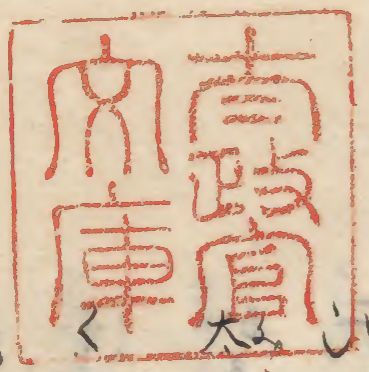
大足彥忍別天皇

雅足彥天皇

景行天皇

成務天皇





元年秋七月、
 皇子とあり給時日、
 九十九年春二月、
 天皇三十七年、
 皇子とあり給、
 天皇山明、
 元年秋七月、
 皇子とあり給、
 九十九年春二月、
 天皇三十七年、
 皇子とあり給、
 天皇山明、



大足彦忍別天皇、
 景行天皇、
 彦五十狭茅天皇、
 子あり母あり、
 丹波乃道主王のむ、
 皇子とあり給、
 天皇三十七年、
 皇子とあり給、
 天皇山明、



日本書紀
 大足彦忍別天皇
 景行天皇
 彦五十狭茅天皇
 子あり母あり
 丹波乃道主王のむ
 皇子とあり給
 天皇三十七年
 皇子とあり給
 天皇山明

くし乃んし伊あせ入ひこのま中を城生させ
又其兄えんしけんは是さぬまは國道
らと城生あやあり葉りあせ國生切このん
こいれとく海の別乃と城生あやあり次
の妃阿倍氏木事あむあたるたひ兄あ
帝國類別しうもあけふと城生せり是伊
よの國乃御村のまけめと城生あやあり次
の妃日向乃養長大田根ひとそ川ひよあひこ
城生よんれと阿牟君のし城生あやあり

次乃妃龍襲武媛くあちまけりみまはくませ
まけりそその兄くまちまけりみまはくませ
沼別乃と城生あやあり葉りあせ國生切このん
こま是のま乃まけりしと城生あやあり夫大
皇乃初こよこひめよこさとのちあせ
八ナとらめえこまはまあちりる屋ま
こまの尊もまはし初しけ天皇五百城
入彦乃よと城生あやあり七十あはりあせ

此より去る神を以てその為神

直入物部

多岐の中臣神三ツ一羅神神は十二月

の行宮は

高屋宮たらのみや

十二月の朔の日

熊籠衣くまかみは

小天皇

を以て

熊籠衣くまかみは

者あり

其は

其は

其は

其は

其は

其は

其は

其は

兼師

いちあや
市乾麻文いちけんあや 第一いち市麻文いちあや

まのくちすてい
心こころすく
雄武ゆうぶ下した

小兒こわら いる
消县しょうけん

うらむこ
杞かし

不意ふい 又また ね
杞かし

あや
天皇てんわう

可か 小こ 小こ 小こ

其その 幕まくら

下小兒したこわら 天てん 皇わう 下した 天てん 皇わう

給たまは 時とき 市乾いちけん

鹿文しかふん 天てん 皇わう 下した

志し 熊くま 籠かご 衣え 下した

海うみ 下した

兵へい 下した 海うみ 下した

父ちち 下した 海うみ 下した

父ちち 下した 海うみ 下した

父ちち 下した 海うみ 下した

承和四年秋九月朔日ありては
船を以て東海國よりしつる海に
日くは夜より御すはるんり
海に火乃切り見くあり天皇
扶抄者世鬼と稱り志く海に
の^也とてせし海に火は
ゆくにまゐるるにほくし
天皇の火乃切りし知れし
海に何れもむる國人に
海に

さく是も八代乃ちむら豊れむ
まゝの火をこれぬ人乃火
まゝ志すれも主はえ
さうぬ人の火もあま
の國は名はまの國に六月
乃ちこれ朔の日は高来乃
より國をあげむる時
乃新の土を清らと
此れは福の日に其國郊

原を海と云く一々人の居る天
皇は海と云く一々の國よ人ありや時よ二と
しは神下海と云く一々の國よ
いあさささささささささ人よ
下ささささささささささ
むそ人ささささ故を國公の河
ささささ秋七月の朝さささ
の日はさささささささささ
さささ高田の行宮さささ

さささ樹あり長九百七十丈
さささの樹さささささ
あさささささささ
甲さささささ
さささ天皇の御衣さささ
さささささささささ
さささささささ
ささささささ
ささささささ

山もさう様為山河のくくく日代たるた河
 多つくくあそ山は日代つくくあつくくも
 天皇帝のめはつくくくの樹あやつくく木あり
 故の國はむ御木國くあつくく是くく
 神のくくもくく日八女くくあつくく
 前山はくくく南はくく
 栗の澤はあやつくくみくく
 たはくく山は秋油くくあつくく
 神

山もさう海はくくく水沿はあつくく
 様大海まきくくく神の神の
 文名はあやつくくく山
 八月の的のつくくく
 盛はくく故もくく人そは盛つくく
 知はるはくく浮羽くくく
 佐

膳夫

盡に有る川あり浮初

十九年秋九月

甲辰日天皇日向より

二十年春二月

日

給

二十五年秋七月

北陸

心東方

百姓

あ

二十七年春二月

元祿の日武内宿禰

下

日高見國

あ

あ

あ

あ

海... 吉備... 神あり

あまの海... 神あり

あまの海... 神あり

あまの海... 神あり

あまの海... 神あり

二十八年春二月... 朔や

あまの海... 神あり

あまの海... 神あり

あまの海... 神あり

あまの海... 神あり

あまの海... 神あり

あまの海... 神あり

あまの海... 神あり

あまの海... 神あり

あまの海... 神あり

あまの海... 神あり

あまの海... 神あり

あまの海... 神あり

三尺 鈕 熊籠衣乃國

...

...

...

...

...

...

...

...

再拜

武彦々大伴武日連々小女命

...

...

...

...

...

...

...

...

誅

此の... 其水
以飲... 故... 泉...
下居醒乃泉... 海...
あ... 給... 海...
志... 痛身
可... 入...
了... 尾津
つ... 給...
い... 給... 尾津の濱... 給... 尾津

進食
下... 給... 井... 給...
今... 故歌
あ... 故
能... 野... 給...
... 故
... 故

海に... 其の... 宴樂
... 日... 海... 宴樂
... 國... 宴樂
... 故... 下... 宴樂
... 給... 時... 天皇
... 皇

太子... 給... 日武内宿禰... 棟
... 梁之... 給... 尊... 在...
... 神... 所... 喧
... 時... 命...
... 神...
... 朝...
... 進上
... 御諸山...

歳がのちのし

二年冬十月にそののちのし

日大御に御み天皇の御み國乃山邊たへん

道上に御み

御み下皇太后の御み

三年春正月に御みのし

日武内宿禰河大君の御み給ふ

天皇と武内宿禰同日に生むる故に

御み給ふ

四年春二月に御みのし

秋に御みのし大御に御み天皇

御みのし録に御みのし

天以治人に志を御みのし

御みのし

志く道を御みのし

御みのし

御みのし

御みのし

日天皇之... 一百七歳

崩

日本書記卷第八

足仲彦天皇

仲哀天皇

天皇... 日本武尊...

母... 天皇...

兩道入娘命... 天皇...

天皇... 天皇...

身長... 天皇...

天皇四十八年... 太子... 給... 時年...

天皇... 天皇... 故...

下嗣... 緒立務兼天皇... 年秋九月... 日... 蔡...

元年春正月... 秋九月... 冬十一月... 皇太后... 後...

孝... 神... 白鳥... 諸國... 白鳥... 周十一月... 越國...

りくぬ珠とまろく真治鳥池はくくくある
袖く真鳥はあはむとさるくこの真鳥は
そむはえそあそくくくくくくくくくくく
海くくくくくくくくくくくくくくくく
あそむくくくくくくくくくくくくくく
侍とのあくくくくくくくくくくくく
いそくくくくくくくくくくくくくく
さう本はくくくくくくくくくくくく
上枝うきつえりくくくくくくくくくくくく
ハ又瓊はつたまに海くくくくくくくく
中枝ちゆうしくく

海くくくくくくくくくくくくくく
海くくくくくくくくくくくくくく
よくくくくくくくくくくくくくく
この物ゆめくくくくくくくくくく
海くくくくくくくくくくくくくく
鬼せくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく
ちくくくくくくくくくくくくく
提あき

平^{ひら}た^た海^{うみ}へ^へあり^り海^{うみ}へ^へ天皇^{てんかう}より^{より}賜^{たま}は^はり
五十^{いそ}迹^し手^て以^もち^ち給^{たま}は^はり^り海^{うみ}へ^へ賜^{たま}は^はり
故^こ時^{とき}の^の人^{ひと}い^いは^はれ^れし^し海^{うみ}へ^へ賜^{たま}は^はり^り
伊^い弼^しの^の國^{くに}今^{いま}伊^い弼^しと^とい^いふ^ふ海^{うみ}へ^へ賜^{たま}は^はり^り
是^{こゝ}に^{こゝ}は^はり^り日^ひ備^び縣^{けん}と^とい^いふ^ふ海^{うみ}へ^へ賜^{たま}は^はり^り
よ^よも^もか^か檀^{たん}日^ひ宮^{みや}と^とい^いふ^ふ海^{うみ}へ^へ賜^{たま}は^はり^り
是^{こゝ}に^{こゝ}は^はり^り乃^の朔^{しやく}海^{うみ}へ^へ賜^{たま}は^はり^り
と^とい^いふ^ふ海^{うみ}へ^へ賜^{たま}は^はり^り能^{のう}龍^{りゆう}衣^いと^とい^いふ^ふ
海^{うみ}へ^へ賜^{たま}は^はり^り神^{かみ}と^とい^いふ^ふ

天皇^{てんかう}を^をん^ん不^ふ能^{のう}籠^{りゆう}衣^いと^とい^いふ^ふ海^{うみ}へ^へ賜^{たま}は^はり^り
是^{こゝ}に^{こゝ}は^はり^り給^{たま}は^はり^り乃^の朔^{しやく}海^{うみ}へ^へ賜^{たま}は^はり^り
此^{こゝ}に^{こゝ}は^はり^り海^{うみ}へ^へ賜^{たま}は^はり^り海^{うみ}へ^へ賜^{たま}は^はり^り
よ^よも^もか^か檀^{たん}日^ひ宮^{みや}と^とい^いふ^ふ海^{うみ}へ^へ賜^{たま}は^はり^り
乃^の朔^{しやく}海^{うみ}へ^へ賜^{たま}は^はり^り向^{むか}津^つ國^{くに}と^とい^いふ^ふ海^{うみ}へ^へ賜^{たま}は^はり^り
是^{こゝ}に^{こゝ}は^はり^り給^{たま}は^はり^り乃^の朔^{しやく}海^{うみ}へ^へ賜^{たま}は^はり^り
り^り之^{こゝ}に^{こゝ}は^はり^り給^{たま}は^はり^り給^{たま}は^はり^り
よ^よも^もか^か檀^{たん}日^ひ宮^{みや}と^とい^いふ^ふ海^{うみ}へ^へ賜^{たま}は^はり^り
是^{こゝ}に^{こゝ}は^はり^り給^{たま}は^はり^り給^{たま}は^はり^り

金銀

携

金銀

新羅

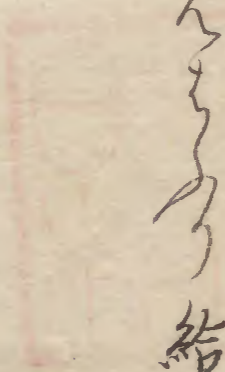
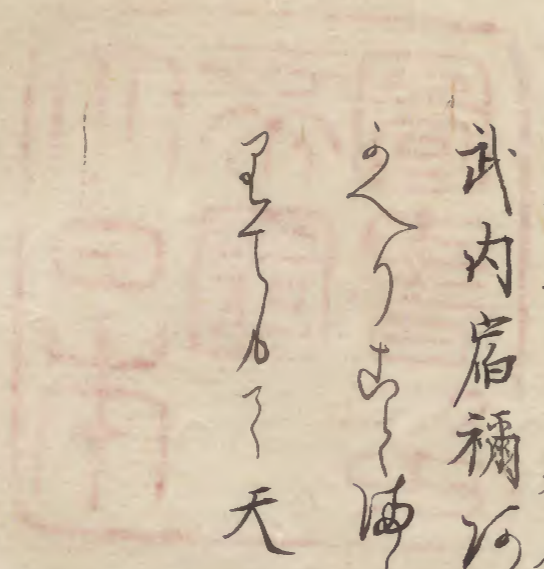
其

眼

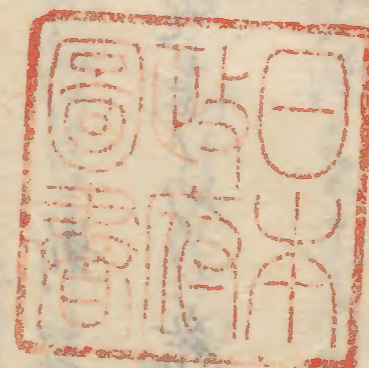
炎

美女

為賊津乃むし連大三輪大友氏主君の
 の乃膽昨乃むし連大伴のあけもうけむ
 乃ふいふいふいふいふいふいふいふ
 い海々天皇のめんさう海々あはれ志むし
 乃めんあはれ志むしあはれ志むし
百姓あはれ志むしあはれ志むしあはれ志むし
百姓あはれ志むしあはれ志むしあはれ志むし
 一あむさう天皇けいのつ徳成あはれ志むし武
 内宿禰あはれ志むしあはれ志むしあはれ志むしあはれ志むし
先火あはれ志むしあはれ志むしあはれ志むしあはれ志むし
 武内宿禰あはれ志むしあはれ志むしあはれ志むし
 之うあはれ志むしあはれ志むしあはれ志むし
 乃さうさう天皇あはれ志むしあはれ志むし



4.



Faint handwritten text in cursive script (sōsho) is visible on the right page, including the characters '天下' (Tenka) and '今日' (Konjō).

